

MAG ねっと 第 2 四半期決算レシユメ

[1] 第 2 四半期業績結果

		第 2 四半期連結業績		
		連結売上高	連結経常利益	連結当期利益
2Q 実績	今 期	167.3 億	13.1 億	▲8.6 億
	前 期	256.0 億	46.3 億	24.6 億
	前 年 同 期 比	▲88.7 億 (▲34.6%)	▲33.2 億 (▲71.7%)	▲33.2 億 (-)

- (1) 売上減少要因: ①イーマックス: 不動産市況の悪化による売上の減少(約▲57 億)、②マルマン: 国内販売の低下による売上の減少(約▲18 億)
- (2) 経常利益減少要因: ①イーマックス: 在庫不動産処分による損失等(約▲5 億円)、②ジャスティス: 保守的な貸倒引当金の積み増し(約▲6 億円)、③旧 MAG: 不動産鑑定需要の低下による鑑定収入減(約▲4 億円)。
- (3) 当期利益減少要因: 第 1 四半期に過年度法人税支払(▲13.7 億円)の影響を除けば実質当期利益は▲8.6 億+13.7 億=5.1 億。
(注)SFCG との役員兼務解消による経営の独立性強化: 新経営陣: 大島嘉仁(代表取締役社長)、吉田直樹(取締役会長)、上田雅史(取締役副社長)

[2] 通期業績の見通し

		通期連結業績		
		連結売上高	連結経常利益	連結当期利益
通期予想	今 期	510.0 億	100.0 億	50.0 億
	前 期 実 績	487.9 億	95.2 億	62.1 億
	前 年 同 期 比	22.1 億 (4.5%)	4.8 億 (5.1%)	▲12.1 億 (▲19.4%)

- (1) 旧 MAG: 通期 35 億円の経常貢献⇒好調賃貸保証事業の月間保証受注件数が 3 万件突破。
- (2) ジャスティス: 通期 50 億円の経常貢献⇒上期は保守的に引当金積み増し(6 億)。下期買取債権の回収加速化により、収益増加と引当金戻し入れ。
- (3) カーチス: 2008 年 11 月より連結子会社化。半期分を下期に連結取り込み。

[3] グループ各社通期見込み内訳

グループ会社名	中間期業績		今期通期見込		重点事項
	売上高	経常利益	売上高	経常利益	
MAG ねっと	29.8 億	10.2 億	91.4 億	48.8 億	—
旧 TZHD	13.3 億	8.1 億	26.4 億	13.8 億	TZCS 売却による配当収入減は減益要因となるも、傘下の連結子会社からの配当収入により経常黒字を確保
旧 MAG	16.5 億	2.1 億	65.0 億	35.0 億	今期、賃貸保証事業日本 No.1 確立(月間賃貸保証受注: 3 万件を突破。6 万件を目論む。競合他社の倒産も追い風となっている。また不動産加盟店数も期初の 9,400 社から 10,000 社を突破して中間期末で約 10,700 社。
Jファクター	11.5 億	4.8 億	25.0 億	12.0 億	旧来主力部門であった卸金融部門は撤退なるも、債権買取ファクタリング事業、地銀・信金信組向け信用保証事業の開始によりフィビジネスを積極的に展開して収益拡大の見込み。
ジャスティス	26.0 億	10.4 億	75.0 億	50.0 億	世界的な金融危機という好機到来。外部債権買取を拡大し、買取債権残高 5 兆円獲得を目指す。また従来行っていなかった不動産不良債権の買取を下期から開始する予定。
ストラテジィ	36.3 億	2.0 億	80.0 億	4.0 億	PC パーツ販売拡大に加え、グループ外のソフト開発受注にて外部収益の獲得を推進
イーマックス	27.9 億	▲1.4 億	27.9 億	▲1.4 億	SFCG 傘下の不動産クレジット社とのシナジー追及の為、8 月に売却済。
マルマン G	48.0 億	1.8 億	94.8 億	6.3 億	主力商品のモデルチェンジにて売上拡大。また好調の海外は欧州市場新規開拓に着手。原材料高騰にはブランドの絞込を含む大幅コスト削減で対応。
カーチス G	—	—	144.0 億	6.0 億	第 2 四半期にて経常黒字 2.6 億を計上し継続企業の疑義の解消完了した状態で下期から連結取込。
その他	9.8 億	0.4 億	27.3 億	2.4 億	バックオフィスサービス(BOS): JF ファクタリング事業の事務部門として集金代行、支払代行業を担当。売上 1.2 億、経常 0.6 億の見込。
連結消去	▲21.9 億	▲14.9 億	▲55.4 億	▲28.1 億	—
合計	167.3 億	13.1 億	510.0 億	100.0 億	—